



米国バーモント州
Champlain Valley 養蜂場
蜂蜜・メープルシロップ提案書



1: バーモント州と蜂蜜



バーモント州は米国北東部ニュー イングランド地方にある州で、森林に覆われた自然の景観地で、米国で最も環境に優しい州ランキング1位*として名声を誇っております。また、19 世紀に造られた 100 を超える屋根付きの木の橋や蜂蜜、メープルシロップの主な産地として知られています。数千エーカーにおよぶ山岳地帯には、ハイキングやスキーのコースが縦横に走っており、州都はモントピリアで秋には紅葉がとても美しい街です。こんな環境に恵まれたところで養蜂家が最も高品質の蜂蜜を生産しております。また、バーモント州に伝わるリンゴ酢と蜂蜜を用いた「バーモント民間療法」 “ハニガー” は1950年代～1960年代にデフォレスト・クリントン・ジャービス（英語: DeForest Clinton Jarvis）博士の著書によって世界的に広められ、ハウス食品の有名なキャッチフレーズ、リンゴと蜂蜜 “バーモントカレー” はここから来ております。バーモント州の高齢の人たちが今でも健康飲料としてハニガーを飲み愛飲し健康を保っております。

*WalletHub (@wallethub) April 18, 2017

このランキングは、一人当たりの LEED 認証ビルの数、再生可能資源によるエネルギー消費の割合を含む、環境の質から環境保護政策まで20の要素で50州を評価。環境の質、エコフレンドリーな行動、気候変動対策への貢献等で総合評価している。全体1位はバーモント州、2位はマサチューセッツ州、3位はオレゴン州、5位はコネチカット州。最下位はワイオミング州。



バーモント州州都モントピーリアの街並み



屋根付き橋



リンゴ

2 : バーモント州の特産、蜂蜜、メープルシロップ、リンゴ

バーモント州の特産は、優れた品質の天然のはちみつで、養蜂業が盛んで、バーモント州の州のオフィシャルな昆虫は、ハチとなっています。

また、日本で有名なカレールーのハウス食品バーモントカレーの商品名の由来は、バーモント健康法という言葉から由来しているといわれております。バーモント健康法とは、その当時流行っていたバーモント州に古くから伝わるリンゴとはちみつを使用した民間療法です。日本にまだ辛いカレーしかなかった時代に、日本のバーモントカレーの開発者が、大人も子供も家族全員が美味しく味わえる様に開発したカレーが、リンゴとはちみつを使用した健康にも良いとされるバーモントカレーでした。



養蜂家が所在するシャンプレーン湖

3 : Champlain Valley 養蜂場について

会社紹介ビデオ : https://www.champlainvalleyhoney.com/Our-Story_ep_7.html

<https://youtu.be/xyMifdD3XBs>

- シャンプレーンバレー養蜂場は、3世代に渡りバーモント州において引き継がれた、家族経営の養蜂場です。
- 革新的な養蜂家チャールズ・ムラーズによって1931年に設立された全米で最も古い養蜂場の一つで、約90年にわたり自然環境に優しい山と森と湖に囲まれた美しい地バーモント州で美味しい蜂蜜を製造しています。
- 会社の使命は、最高品質の蜂蜜を生産することに加え、持続可能な農業を育て、ミツバチの私たちの食料システムへの重要性を促進することです。
- 会社が造る蜂蜜は添加物を一切加えない天然・生の蜂蜜 (Raw Honey) と高温ろ過処理された液体蜂蜜 (Liquid Honey) の2種類があり、天然結晶化した蜂蜜は淡い色合いです。
- 自然に結晶化した生の蜂蜜 (Raw Honey) は、加熱されておらず、また、濾過は不純物除く最小限のろ過に止めるため、美味しい風味と多くの健康的な特性はそのまま残ります。
- 私たちの蜂蜜は、クローバー、アルファルファ、バーズフットトレフォイル*などの主にマメ科植物など、さまざまな野生の複数の花の原料から集められ造られています。従って化学肥料、農薬を駆使する現代農業の果樹園等から受粉のために放たれた蜂が採取する蜜とは異なります。蜂は、また、木、タンポポ、アキノキリンソウなど自然に育った、木、花から蜜を集めます。私たちが生産する蜂蜜の各樽は、特定の時間に特定の領域の花のスナップショットで、単一の花からの蜂蜜ではありません。
- 私たちの蜂蜜の正確な構成は、年々、さらには養蜂場ごとに異なります。無農薬、無添加物、自然な天然の蜂蜜を生産し、結晶化特性が低いのが特質ですが、同等の高品質な蜂蜜を生産し創業時から3世代に渡り提携しているカナダの1養蜂家と市場への安定供給のため、バーモント州のハチミツをバーモント州と隣接するカナダで生産された同養蜂家のプレミアムハチミツを一部ブレンドしています。
- 私たちはミツバチを有機的に扱い、冬の間、巣箱に生き残るために十分な量の蜂蜜を残します。
- 会社の歴史を通じて、私たちの方法は養蜂家の間で広く知られており、病気に耐性があり、バーモント州の最も厳しい冬でも繁殖する丈夫なミツバチを育てています。



クローバー



アルファルファ



アキノキリンソウ



*バーズフットトレフォイル*マメ科の耐寒性多年草薬効のあるハーブ



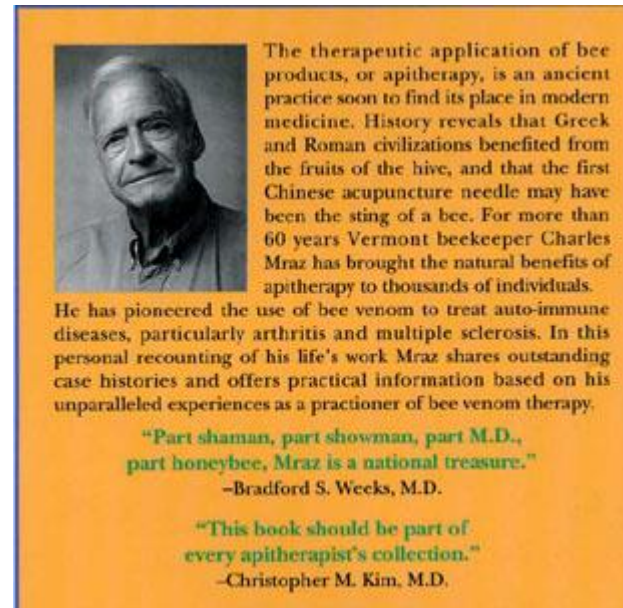
先代チャールズ・ムラーズの養蜂写真風景

4 : 創業者Charles Mrazとアメリカ養蜂学会 について

Health and the Honeybee

著者：Charles Mraz

Queen City Publications, 1995 - 92 ページ



創業者チャールズ・ムラーズは60年間蜂針療法に取り組み数千人の個人の治療を行いました。また、彼は1989年に設立されたアメリカ養蜂学会<https://apitherapy.org/history/> の創設メンバー理事として活躍しましたが、惜しくも1994年94歳で生涯を閉じました。また、1992年にはアメリカ養蜂連盟からミツバチの品種改良と業界への貢献から養蜂学会賞を受賞。尚、蜂針療法（Bee Venom Therapy：BVT）はミツバチの針と蜂針液を利用した療法で、アピセラピー（ミツバチ治療法）のひとつであり、欧米各国で、特にドイツ・ロシアなどでは古くから神経痛やリウマチに用いられ、日本でも民間療法で行われている地域があります。一匹のミツバチは、約0.1mgの蜂毒を持っており、約50種類の成分を含有すします。生きたミツバチから蜂針を抜き取り皮膚に刺すと、蜂針液は急速に皮下へ浸透して血行促進作用、抗炎症、疼痛緩和、神経賦活作用、抗菌作用等を有します。また蜂針による刺激作用は自律神経の調整に役立ち、自然治癒力を増す働きがあります。但し治療前にアレルギー反応に注意を払い治療します。

5 : ハニガー : バーモント州の健康と長生きの秘密について

- バーモント州は50ある州の中でも、65歳以上の高齢者の割合が高いと言われています。健康と長生きの秘訣を調査した結果次のことが判りました。
- その謎をいち早く解明したのが、1950年代にこの地で医師をしていたジャービス氏。彼は自身の著書の中で、『昔から地元バーモント州に伝わるはちみつやリンゴ酢が健康に良い』と紹介していました。
- リンゴ栽培が盛んなシェルバーン。毎年5月になると、この地にある知人のりんご農園に巣箱を置いている養蜂家のムラーズさん。ムラーズさんのおじいさんは、ジャービス医師と親交がありました。そのおじいさんが好んで飲んでいたので、はちみつに同量のリンゴ酢を加えよく混ぜて、お湯などで割ったドリンク。ハニーとビネガーで、「ハニガー」と呼ぶものです。やっぱり、健康の秘訣は、「はちみつ」。バーモント健康法。豊かなる地元の恵みと伝統です。

出展：山田養蜂場Beeワールド

https://www.3838.com/bee-world/backnumber/190829_un1/



ハニガー

Yotsuya Stick & Interior Art All Rights reserved 2020



ジャービス医師

6 : Champlain Volley Honey社の安全管理についてISO-IEC 17025* 認定取得



- 同社はISO-IEC 17025 ANSI National Accreditation Boardから安全管理に関する認定を受けております。
- これは健全なマネジメントシステムに関する要求事項で、法律上の責任を保持できる組織であること。
- 品質を保証するために必要なマネジメントシステムの構築、文書管理の方法、顧客の依頼内容の把握、購買に関する取決め、苦情や不適合の管理について認定され合格すれば認定書が発行される。

ISO17025*とは：

試験所・校正機関が正確な測定/校正結果を生み出す能力があるかどうかを、権威ある第三者認定機関が認定する規格です。

ISO/IEC17025は”試験所認定”と呼ばれ、製品検査や分析・測定などを行う試験所及び計測機器の校正業務を行う校正機関に対する要求事項が定められています。

日本でもILAC、APACとの間で相互承認協定(MRA)を締結している認定機関であるPJLAは、規格の要求事項に沿って審査を行い、その試験所・校正機関が認定を取得するのに妥当であるかを判断します。

認定を受けた組織は、試験成績書や校正証明書へ認定シンボルを付加することができます。製品管理・品質管理を行ううえでのマネージメント力と、信頼性のある試験/校正結果を生み出す技術力が国際的に認められていることをアピールできます。認定には大きく分けて試験、校正2種類の分野があり、さらにそれぞれに多種多様な認定範囲が含まれています。

7：今回提案商品

1：1 lb. Glass Jar of Raw Naturally Crystallized Honey

1ポンド（約453g）グラス詰め天然・生ハチミツ

製造：米国バーモント州Champlain Volley Honey社

賞味期限*：5年

2：1 lb. Glass Jar of Raw Naturally Crystallized Honey

1ポンド（約453g）グラス詰め天然・生ハチミツ

製造：米国バーモント州Champlain Volley Honey社

賞味期限：5年

3：1lb. Glass Jar of Liquid Honey

1ポンド（約453g）グラス詰め天然・加熱処理ハチミツ

製造：米国バーモント州Champlain Volley Honey社

賞味期限：5年

賞味期限*ハチミツは糖度が80%程と非常に高く、水分が少ないため浸透圧の働きによって腐敗菌は繁殖することができません。菌が繁殖できないため、腐らず、何年経っても賞味できますが、開封後はお早めに賞味して頂くようお勧めします。尚、本蜂蜜は天然100%で添加物はありませんので、賞味期限は特にありませんが、日本の法令上期限を明記する必要があり5年と明記しました。

価格：Raw Honey 2本+ Liquid Honey 1本 合計：3本

本体価格10,000円（税抜き価格）

尚、箱にLight Up Shopping Club ロゴと50周年ギフト商品と印刷が可能です。尚、蜂蜜の種類はバーモント州に咲くクローバー、アルファルファ、バーズフットトレフォイルの花からミツバチが採集したものです。

Raw HoneyとLiquid Honeyの違い：

1. Raw Honey: this is taken naturally from the hive, filtered out at 400 microns to remove all natural particles; and then bottled. Because the honey is raw, it contains more natural health ingredients such as enzymes and propolis.

1. 生の蜂蜜：これは巣箱から自然に採取され、400ミクロンでろ過されてすべての自然の粒子を取り除きます。そして瓶詰め。蜂蜜は生であるため、酵素やプロポリスなどのより自然な健康成分が含まれています。

2. Liquid Honey: this is also naturally taken from the hive, filtered out at 400 microns, and through a finer “sock” filter, then heated to 150 degrees to ensure textural consistency. It has a smooth, almost velvet like feel to it in the mouth. (actually, I preferred the taste of the liquid honey over the raw honey, though both were excellent.)

2. 液体蜂蜜：これは巣箱から自然に採取され、400ミクロンでろ過され、さらに細かい「ソック」フィルターでろ過され、150度に加熱して、蜂蜜組織の一貫性を確保します。口の中でなめらかでほぼベルベットのような感触です。



7：今回提案商品

- 1 : 1 lb. Glass Jar of Raw Naturally Crystallized Honey
1ポンド (約0.58 l、581 ml) グラス詰め天然・生ハチミツ
製造：米国バーモント州Champlain Volley Honey社
- 2 ; 0.5 パイント1/2 pint (237 ml) Bread Loaf View Farm 's*
Pure Vermont Amber Rich Maple Syrup
賞味期限*：共に5年

- メープルシロップは、バーモント州コーンウォールにある家族経営のBread Loaf View Farmに委託生産しており、Vermont州で最高のアンバーリッチメープルシロップを生産しています。

賞味期限*ハチミツは糖度が80%程と非常に高く、水分が少ないため浸透圧の働きによって腐敗菌は繁殖することができません。菌が繁殖できないため、腐らず、何年経っても賞味できますが、開封後はお早めに賞味して頂くようお勧めします。尚、本蜂蜜は天然100%で添加物はありませんので、賞味期限は特にありませんが、日本の法令上期限を明記する必要があり5年と明記しました。



価格：Raw Honey 1本+ メープルシロップ1本組み合わせセット
本体価格7,000円 (税抜き価格)

尚、箱にPrince Hotel様の印刷が可能です。尚、蜂蜜の種類はバーモント州に咲くクローバー、アルファルファ、バズフットトレフォイルの花からミツバチが採集したもので、メープルはバーモント州のメープルツリーの樹液から採集した最高のメープルシロップです。

蜂蜜とメープルシロップ：

どちらも原材料である植物の蜜の主成分はショ糖です。しかし、メープルシロップが樹液を煮詰めて作られるのに対し、はちみつはミツバチの体内酵素によって作られます。ミツバチの酵素で成分は分解され、ブドウ糖と果糖に変わります。ほかの成分では、はちみつの糖分が多く、メープルシロップはミネラルが豊富。ビタミンははちみつの方が多いです。はちみつはねっとりと甘みが強いのが特徴。メープルシロップはサラッとしていて自然の風味が強いと言え、パンケーキに最適です。。



8 : アメリカにおけるアマゾン価格と評価

1 : Raw Honey by Champlain Valley Apiaries (1 Pound)

Price:\$26.50 (\$1.66 / Ounce)

1 8 人の評価実施 5点満点中4.7点

- 100% Raw Honey
- Naturally Crystallized
- Unheated; Unfiltered
- Great Sweetener For Coffee And Tea; Excellent Substitute For Sugar In Baking

2 : Liquid Honey by Champlain Valley Apiaries (1 LB) by Champlain Valley Apiaries

Price:\$26.50 (\$1.66 / Ounce)

3 人の評価実施 5点満点中5.0点

Smooth, Delicious Texture

- Vermont Honey
- Great Sweetener for Coffee and Tea
- Healthier Alternative For Sugar In Baking

<https://www.amazon.com/Liquid-Honey-Champlain-Valley-Apiaries/dp/B000FHZQ20>



9 : Champlain Volley Honey社の受賞歴と有名顧客

- 同社の創業者Charles Mraz氏は、全米の養蜂家に多大の貢献したことを受けて、1992年にはアメリカ養蜂連盟からミツバチの品種改良と業界への貢献から養蜂学会賞を受賞。
- 寒冷の地バーモント州で越冬する強いミツバチの品種改良に成功し、その事で格段のミツバチの生産量を増やすことに成功。この蜂をバーモント州の養蜂家に伝え養蜂家の育成に貢献。
- 煙を蜂に吹きかけることによって、一時的に蜂が大人しくなり、養蜂家の仕事がやり易くなります。この煙を出す道具を燻煙器と言いますが、これを考案したのが創業者Charles Mraz氏で世界の養蜂家に貢献しております。
- ムラーズ氏は、数十年に渡って蜂針治療を推進1989年に研究と教育を促進するために設立された米国アピセラピー協会の創設メンバー理事として活動すると共に、生涯で数千人の患者に治療を施した貢献で米国アピセラピー協会から貢献賞を受賞。
- 2020年度のバーモント州養蜂家協会で特に業界に貢献した養蜂家に贈られる”Beekeeper of the Year “賞を同社代表Chas Mraz氏が受賞（記事、写真参照）
- 同社の有名顧客として、前米国駐日大使 Caroline Kennedy*が同社のハニーキャンドルの愛好家として知られております。また、ファッション業界の雄、が同社のRaw Honeyの愛用家であるとの事です。

Caroline Kennedy* Armani family ** : 本名前の公表は本人から承諾を得ておりませんので本企画書での情報開示のみでカタログでの公表は差し控えるよう同社から要請を受けております。

2020年Beekeeper of the Year 受賞記事 :

Beekeeping in Vermont

Mraz Family - Beekeepers of the Year

Chas Mraz accepted the 2020 Vermont Beekeepers Association's "Beekeeper of the Year" award on behalf of the entire Mraz family, known throughout the world for contributions to beekeeping. This was one highlight from today's Winter Meeting of the group as part of the Vermont Farm Show.

Over 150 people attended the day-long meeting which included educational seminars and the first look at a new book: The Land of Milk & Honey by VBA members Bill Mares and Ross Conrad.



Charles Mraz, 94, Advocate of Therapeutic Bee Sting, Dies

By KAREN FREEMAN

Charles Mraz, an inventive beekeeper who since the 1930's had been the country's leading evangelist for the therapeutic use of bee stings, a still unproven treatment, died on Monday at his home in Middlebury, Vt. He was 94.

Mr. Mraz was widely known among beekeepers for developing a hardy strain of bees well suited to survive in the chilly Champlain Valley in Vermont and for figuring out how to get cranky bees safely out of the way so honey could be harvested more easily.

But many thousands of people with chronic diseases knew him for his campaign to have bee venom and other bee products accepted as medical therapies in the United States — a quest that began when he deliberately bared his own arthritic knees for bee stings. His proteolyzing prompted people from all over the world to seek his advice on treatment.

"Letters mailed to The Bee Man, Middlebury, Vt., would make it to my house," said Mitchell Kurker, his son-in-law.

A federally supervised clinical trial of the safety of such treatments is only now being undertaken. For decades, many sick people made pilgrimages to Middlebury for bee sting therapy, for which Mr. Mraz never charged. He would pluck bees after being from a jar, holding each one with forceps as it sank its stinger into the visitor's skin, then crushing the mortally wounded bee.

Mr. Mraz was convinced that the venom in bee stings could relieve the symptoms of autoimmune diseases like multiple sclerosis and rheumatoid arthritis by, among other things, triggering an anti-inflammatory response. Though that idea is not accepted by a vast majority of doctors, many people with such diseases heard his message and came to believe that it offered them hope.

Now the treatment could be moving closer to respectability. In a few weeks, the first clinical study of bee venom injections under the supervision of the Food and Drug Administration will begin at Georgetown University. The research is sponsored by the Multiple Sclerosis Association of America, based in Cherry Hill, N.J. The yearlong study will examine safety; if the treatment clears that hurdle, the next step will be to find out whether it works.

Mr. Mraz tried to encourage research during the decades he promoted bee sting therapy. He was founding member and a director of the American Apitherapy Society, which was set up in 1986 to promote research and education. And he

venom," said Roger Morse, a retired professor of apiculture at Cornell who was a friend of Mr. Mraz for 50 years but disagreed with him about whether bee venom has medicinal properties. "He would collect and supply venom free of charge to anyone who was doing research with it, no matter what kind of research was being done. He was a very unusual man who wanted to help society — both preacher and practitioner."

Mr. Mraz was enthralled by bees at an early age. He was born on July 26, 1905, in Queens and set up his first beehives at age 14, while he still lived in the city. After working for other beekeepers in the Finger Lakes region of New York, he moved to Middlebury in 1928 and started Champlain Valley Apiaries in 1931.

His beekeeping business became one of the largest in New England. At one point, he had a thousand bee colonies, each with a population of 50,000 to 60,000. He ran the business for more than 60 years, until he

Cultivating bees to help in arthritis and multiple sclerosis.

turned it over to his son William.

He discovered that the fumes of carbonic acid would prompt the bees to take cover in the bottom of the hive, leaving their hives unprotected. "That was a very significant advance," said Kirk Webster, owner of Champlain Valley Bees and Queens in Middlebury. "It enabled one person to harvest much more honey than possible before."

That technique is now widely used, and it brought Mr. Mraz an award from the American Beekeeping Federation in 1992.

The strain of bees developed by Mr. Mraz were disease-resistant and adapted to the local climate. "That's become almost the native bee of the Champlain Valley," Mr. Webster said. "They produce a very light clover honey, the standard for very light honeys in the United States."

Mr. Mraz described the episode in his book, "Health and the Honeybee," which was published in 1995 by Honeybee Health Products, owned

by a folk remedy in many cultures but initially considered that "an old wives' tale," Mr. Kurker said. But the pain drove him to try bee stings on both knees.

"I wonder if there is anything to that damned nonsense about bee stings for arthritis," Mr. Mraz thought, according to his book. The next day, he wrote, the pain was gone. "I couldn't believe it," he said. "There wasn't a trace of pain or stiffness in my knees."

His second patient was not long in coming. A neighbor had arthritic hands that were bringing tears to his eyes during the twice-a-day milking on his dairy farm, and Mr. Mraz offered to help. He wrote. After a regimen of bee stings over several weeks, the dairy farmer's hands were opened and closed easily and were no longer swollen, Mr. Mraz said.

He said he had become more confident about the bee sting technique when he found out that a doctor in midtown Manhattan, Dr. Bodog F. Beck, was using the same therapy. Mr. Mraz visited Dr. Beck's office, which had a beehive on the windowsill. The bees flew to Central Park for pollen, Mr. Mraz said, and Dr. Beck used them to sting patients.

As an expert on beekeeping techniques, Mr. Mraz lectured and consulted all over the world, especially in Mexico, and he frequently published in industry journals. At the same time, he spread the word about bee venom therapy, undeterred by

the resistance he encountered. "Most people would look at me as if I was some kind of nut," he wrote. Mr. Mraz also promoted what he contended were the medicinal effects of honey, pollen, royal jelly and a bee resin called propolis.

He considered stings from living bees superior to injections of purified bee venom, although he would provide the venom to researchers if they wished. Some multiple sclerosis patients tried themselves with dozens of stings a day.

"Michelle remembers growing up with a jar of bees always on the table ready to go," Mr. Kurker said. "He'd treat people and send them away with a jar of bees so they could treat themselves."

Besides Michelle Mraz, of Burlington, Vt., Mr. Mraz is survived by his wife, Pamela. His first wife, Letitia, died in 1948, and his second wife, Margaret, died in 1992. Other survivors include his daughters, Margaret Ehek of Shelburne, Vt., and Laurie Zwaan of Exeter, N.H.; his sons, William, of Middlebury, and Charles, of Destin, Fla.; 13 grandchildren, and 7 great-grandchildren.

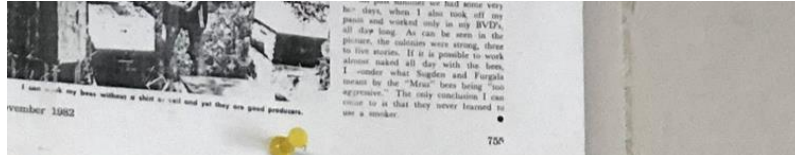
While Mr. Mraz started cutting down on his work at his apiary in the 1980's, he remained an active proponent and practitioner of apitherapy for the rest of his life.

"People were still coming to see him for treatment," Mr. Kurker said. "Somebody came to the house on the morning he died for bee stings."



Charles Mraz, at his beehive in 1975, said stings eased his arthritis.

| Deaths | | Deaths | | Deaths | | Deaths | |
|----------------|----------------|----------------|--|---|---|---|---|
| Abraham, Renee | Helreich, Anna | Schulz, Alfred | WACOR — John McDonald, 94, died on September 14, 1999. He was born in 1905 in the village of Krasnoyarsk, Siberia, and came to the United States in 1923. He was a member of the Communist Party and worked for the Soviet Consulate in New York City. He was married to Helen McDonald. | THORNE — Leslie Lowrey, 94, died on September 14, 1999. He was born in 1905 in the village of Krasnoyarsk, Siberia, and came to the United States in 1923. He was a member of the Communist Party and worked for the Soviet Consulate in New York City. He was married to Helen McDonald. | THORNE — Leslie Lowrey, 94, died on September 14, 1999. He was born in 1905 in the village of Krasnoyarsk, Siberia, and came to the United States in 1923. He was a member of the Communist Party and worked for the Soviet Consulate in New York City. He was married to Helen McDonald. | THORNE — Leslie Lowrey, 94, died on September 14, 1999. He was born in 1905 in the village of Krasnoyarsk, Siberia, and came to the United States in 1923. He was a member of the Communist Party and worked for the Soviet Consulate in New York City. He was married to Helen McDonald. | THORNE — Leslie Lowrey, 94, died on September 14, 1999. He was born in 1905 in the village of Krasnoyarsk, Siberia, and came to the United States in 1923. He was a member of the Communist Party and worked for the Soviet Consulate in New York City. He was married to Helen McDonald. |



Mr. Mraz breaks down Champlain Valley's bees, selecting the stock from hives that have naturally fought pests, diseases and hard winters.

Backyard Beekeepers as Warriors Against a Plague

By LESLIE LAND

The delicate fragrance of newly laid honey and the murmur of wings greeted visitors to our apiary in the Finger Lakes region of New York last summer. My 6, Bill Bakalis, who sends our bees to the Finger Lakes region of New York last summer. My 6, Bill Bakalis, who sends our bees to the Finger Lakes region of New York last summer. My 6, Bill Bakalis, who sends our bees to the Finger Lakes region of New York last summer.



Mr. Mraz breaks down Champlain Valley's bees, selecting the stock from hives that have naturally fought pests, diseases and hard winters.

Getting Started

EXPERTS recommended that beginners learn about bees by joining a local beekeepers' association. Those who wish to start a few winter hives with practicing beekeepers will be a lot further ahead next spring when it's time to set up their own hives.



KEEPING BEES: Charles Mraz runs the Champlain Valley Apiaries in Vermont; top, above, the author's husband, Bill Bakalis, with his hives.

Given that two hives are not enough to sustain a winter colony, it's best to have at least four or five hives to allow for a loss. Given that two hives are not enough to sustain a winter colony, it's best to have at least four or five hives to allow for a loss.

11-1 :New York Time 記事Sept. 19, 1999

Charles Mraz, 94, Advocate of Therapeutic Bee Sting, Dies By Karen Freeman Sept. 19, 1999

Charles Mraz, an inventive beekeeper who since the 1930's had been the country's leading evangelist for the therapeutic use of bee stings, a still unproven treatment, died on Monday at his home in Middlebury, Vt. He was 94.

Mr. Mraz was widely known among beekeepers for developing a hardy strain of bees well suited to survive in the chilly Champlain Valley in Vermont and for figuring out how to get cranky bees safely out of the way so honey could be harvested more easily.

But many thousands of people with chronic diseases knew him for his campaign to have bee venom and other bee products accepted as medical therapies in the United States -- a quest that began when he deliberately bared his own arthritic knees for bee stings. His proselytizing prompted people from all over the world to seek his advice on treatment.

"Letters mailed to The Bee Man, Middlebury, Vt., would make it to his house," said Mitchell Kurker, his son-in-law.

A federally supervised clinical trial of the safety of such treatments is only now being undertaken.

For decades, many sick people made pilgrimages to Middlebury for bee sting therapy, for which Mr. Mraz never charged. He would pluck bee after bee from a jar, holding each one with forceps as it sank its stinger into the visitor's skin, then crushing the mortally wounded bee.

Mr. Mraz was convinced that the venom in bee stings could relieve the symptoms of autoimmune diseases like multiple sclerosis and rheumatoid arthritis by, among other things, triggering an anti-inflammatory response. Though that idea is not accepted by a vast majority of doctors, many people with such diseases heard his message and came to believe that it offered them hope.

Now the treatment could be moving closer to respectability. In a few weeks, the first clinical study of bee venom injections under the supervision of the Food and Drug Administration will begin at Georgetown University. The research is sponsored by the Multiple Sclerosis Association of America, based in Cherry Hill, N.J. The yearlong study will examine safety; if the treatment clears that hurdle, the next step will be to find out whether it works.

Mr. Mraz tried to encourage research during the decades he promoted bee sting therapy. He was a founding member and a director of the American Apitherapy Society, which was set up in 1998 to promote research and education. And he helped any researcher who asked.

"He used a technique developed at Cornell in the 1960's to collect sterile venom," said Roger Morse, a retired professor of apiculture at Cornell who was a friend of Mr. Mraz for 50 years but disagreed with him about whether bee venom has medicinal properties. "He would collect and supply venom free of charge to anyone who was doing research with it, no matter what kind of research was being done. He was a very unusual man who wanted to help society -- both preacher and practitioner."

Mr. Mraz was enthralled by bees at an early age. He was born on July 26, 1905, in Queens and set up his first beehives at age 14, while he still lived in the city. After working for other beekeepers in the Finger Lakes region of New York, he moved to Middlebury in 1928 and started Champlain Valley Apiaries in 1931.

His beekeeping business became one of the largest in New England. At one point, he had a thousand bee colonies, each with a population of 30,000 to 60,000. He ran the business for more than 60 years, until he turned it over to his son William.

He discovered that the fumes of carbolic acid would prompt the bees to take cover in the bottom of the hive, leaving their honey unprotected. "That was a very significant advance," said Kirk Webster, owner of Champlain Valley Bees and Queens in Middlebury. "It enabled one person to harvest much more honey than possible before."

That technique is now widely used, and it brought Mr. Mraz an award from the American Beekeeping Federation in 1992.

The strain of bees developed by Mr. Mraz were disease-resistant and adapted to the local climate. "That's become almost the native bee of the Champlain Valley," Mr. Webster said.

"They produce a very light clover honey, the standard for very light honeys in the United States."

He also designed new kinds of equipment for processing honey, Dr. Morse said.

His passion for what came to be called apitherapy came when painful arthritis threatened his ability to do the heavy work around an apiary.

Mr. Mraz described the episode in his book, "Health and the Honeybee," which was published in 1995 by Honeybee Health Products, owned by his daughter Michelle Mraz and her husband, Mr. Kurker.

He had heard about bee sting therapy as a folk remedy in many cultures but initially considered that "an old wives' tale," Mr. Kurker said. But the pain drove him to try bee stings on both knees.

" 'I wonder if there is anything to that damned nonsense about bee stings for arthritis,' " Mr. Mraz thought, according to his book.

The next day, he wrote, the pain was gone. "I couldn't believe it," he said. "There wasn't a trace of pain or stiffness in my knees."

His second patient was not long in coming. A neighbor had arthritic hands that were bringing tears to his eyes during the twice-a-day milking on his dairy farm, and Mr. Mraz offered to help, he wrote. After a regimen of bee stings over several weeks, the dairy farmer's hands opened and closed easily and were no longer swollen, Mr. Mraz said.

He said he had become more confident about the bee sting technique when he found out that a doctor in midtown Manhattan, Dr. Bodog F. Beck, was using the same therapy. Mr. Mraz visited Dr. Beck's office, which had a beehive on the windowsill. The bees flew to Central Park for pollen, Mr. Mraz said, and Dr. Beck used them to sting patients.

As an expert on beekeeping techniques, Mr. Mraz lectured and consulted all over the world, especially in Mexico, and he frequently published in industry journals. At the same time, he spread the word about bee venom therapy, undeterred by the resistance he encountered.

"Most people would look at me as if I was some kind of nut," he wrote. Mr. Mraz also promoted what he contended were the medicinal effects of honey, pollen, royal jelly and a bee resin called propolis.

He considered stings from living bees superior to injections of purified bee venom, although he would provide the venom to researchers if they wished. Some multiple sclerosis patients treat themselves with dozens of stings a day.

"Michelle remembers growing up with a jar of bees always on the table ready to go," Mr. Kurker said. "He'd treat people and send them away with a jar of bees so they could treat themselves."

Besides Michelle Mraz, of Burlington, Vt., Mr. Mraz is survived by his wife, Pamela. His first wife, Letitia, died in 1948, and his second wife, Margaret, died in 1992. Other survivors include his daughters, Marna Ehreck of Shelburne, Vt., and Laurie Zwaan of Exeter, N.H.; his sons, William, of Middlebury, and Charles, of Destin, Fla.; 13 grandchildren, and 7 great-grandchildren.

While Mr. Mraz started cutting down on his work at his apiary in the 1980's, he remained an active proponent and practitioner of apitherapy for the rest of his life. "People were still coming to see him for treatment," Mr. Kurker said. "Somebody came to the house on the morning he died for bee stings."

11-3 創業者チャールズ・ムラーズ (1905-1999) New York Time 記事 要訳 (Sept. 19, 1999)

チャールズ・ムラーズ、94歳、ハチ針治療の提唱者、死去 (カレン・フリーマン著 1999年9月19日)

チャールズ・ムラーズ、1930年代以来、まだ証明されていない治療法である蜂針治療の伝道者であった独創的な養蜂家は、バーモント州ミドルベリーの彼の家で月曜日に死亡した。享年94歳。ムラーズ氏はバーモント州の寒いシャンプレーンバレーで気まぐれな蜂を如何に冬を越し生き延びさせることが出来るかを研究し、蜂が越冬し丈夫な種を開発する事に成功しました。それゆえ彼の名前は全米に広く養蜂家業界の第一人者として知られていました。蜂蜜をより簡単に育て多くの収穫を得る方法を考案しました。

また、彼はミツバチの針を使用し、慢性疾患を持つ何千人もの人々の治療を行いました。彼の蜂針治療伝道活動は、世界中の人々が彼の治療法についてのアドバイスを求めるようになりました。このような治療法の安全性に関する連邦政府の監督下での臨床試験は、現在行われているばかりである。

何十年もの間、多くの病人が蜂針治療のためにミドルベリーを巡礼していた。ムラーズさんは瓶から次から次へと蜂を摘み取り、その一匹一匹を鉗子で押さえながら、訪問者の皮膚に針を沈め治療にあたりました。

ムラーズ氏は、蜂の刺し傷に含まれる毒が抗炎症反応を誘発することで、多発性硬化症や関節リウマチなどの自己免疫疾患の症状を和らげることができると確信していた。その考えは大多数の医師によって受け入れられていないが、そのような病気を持つ多くの人々は彼のメッセージを聞いて、それが彼らに希望を提供していると信じるようになった。

今、この治療法は医学的に容認されるべきものに近づいているかもしれません。数週間後には、食品医薬品局の監督の下で蜂毒注射の最初の臨床研究がジョージタウン大学で開始されます。この研究は、米国多発性硬化症協会が主催している。1年間の研究で安全性を調べ、治療法がそのハードルをクリアすれば、次のステップは効果があるかどうかを調べることになる。

ムラーズ氏は、数十年に渡って蜂針治療を推進してきた間、研究を奨励しようとしてきた。1998年に研究と教育を促進するために設立された米国アピセラピー協会の創設メンバーであり、理事でもあった。そして彼は依頼された研究者を助けた。

彼は1960年代にコーネル大学で開発された“無菌の毒を採取する技術を使っていた”と語るのは、50年来の友人でありながら、ハチの毒に薬効があるかどうかについて彼と意見が合わなかったコーネル大学の元養蜂学教授、ロジャー・モース氏である。‘彼はどんな研究をしようかと、毒を集めて研究をしている人には無料で提供していた。彼は伝道者としても実践者としても、社会を助けたいと思っていた非常に変わった人だった。

ムラーズ氏は幼い頃からミツバチに夢中になっていた。彼は1905年7月26日にニューヨーククイーンズで生まれ、14歳の時に最初の蜂の巣箱を設置しました。ニューヨークのフィンガーレイクス地方の養蜂家で働いた後、1928年にミドルベリーに移り住み、1931年にシャンプレーンバレー養蜂園を設立しました。彼の養蜂事業はニューイングランド最大級の規模となりました。ある時点で、彼は3万から6万匹の蜂がいる1,000個のコロニーを持っていました。彼は息子のウィリアムにそれを引き継ぐまで、60年以上にわたって事業を運営していました。彼は、カルボン酸の煙が無防備な彼らの蜂蜜を残して、ハイブの底部にカバーを取るためにミツバチを促すだろうことを発見した。“それは非常に重要な進歩だった”カークウェブスターは、ミドルベリーのシャンプレーンバレービーズとクイーンズの所有者は言った。それは一人の人が以前に収穫した量よりもはるかに多くの蜂蜜を収穫することができました。

この技術は現在では広く使われており、1992年にはアメリカ養蜂連盟から賞を受賞しました。

ムラーズ氏が開発したミツバチは、病気に強く、その土地の気候に適応した品種でした。これは、シャンプレーンバレーの固有種のミツバチになっている、とウェブスター氏は言います。彼らは非常に軽いクローバー蜂蜜を生産しており、アメリカの非常に軽い蜂蜜の標準となっています。

彼はまた、蜂蜜を処理するための新しい種類の装置も設計したとモース博士は言います。

11-4 :New York Time 記事Sept. 19, 1999

彼は多くの民間療法としての蜂針治療について聞いたことがあるが、当初は「昔の妻の話」と考えていたという。しかし、その痛みが彼を駆り立て、両膝に蜂針を試してみることにした。

私は、関節炎のための蜂針治療についてくだらないもので疑問に思うと言った患者が、試しに打ったら、次の日痛みはなくなった。私はそれを信じてあげられませんでした。と患者は言った。膝に痛みや硬さの痕跡がなかった。彼の2番目の患者は近所の人で関節炎を患った手を持っていて、彼の酪農場で1日2回の搾乳作業中に目に涙を浮かべており、数週間にわたって蜂針治療を行った後、この酪農家の手は簡単に開閉し、腫れもなくなりました、とMムラーズ氏は言います。

マンハッタンのミッドタウンにある医師、ボドグ・F・ベック博士が同じ治療法を行っていることを知り、蜂針治療技術に自信が持てるようになったという。ムラーズ氏は、窓辺に蜂の巣箱を置いていたベック博士のオフィスを訪れた。ムラーズ氏によると、蜂は花粉を求めてセントラルパークに飛び、ベック博士は患者を刺すのにそのミツバチの針を使っていたという。

養蜂技術の専門家として、ムラーズ氏は世界中、特にメキシコで講演やコンサルティングを行い、業界誌にも頻繁に発表していた。同時に、蜂毒治療についての情報を広め、抵抗にも負けずに活動した。

ほとんどの人は、私が何かの変人かのように見ていました、と彼は書いている。ムラーズ氏はまた、ハチミツ、花粉、ローヤルゼリー、プロポリスと呼ばれる蜂の樹脂の薬効を宣伝した。

彼は、生きているハチからの刺し針は、精製されたハチ毒の注射よりも優れていると考えていたが、研究者が望むならば、その毒を研究者に提供するだろう。多発性硬化症の患者の中には、1日に何十回も蜂針を刺し自分自身を治療している人もいる。

ミシェルは、常にテーブルの上に蜂の瓶を持って育ったことを覚えている、とカーカー氏は言った。彼は人々を治療し、彼らが自分自身を治療することができるように、蜂の瓶を持って彼らを送り出す。

バージニア州バーリントンのミシェル・ムラズさんの他に、妻のパメラさんが遺されている。最初の妻レティシアは1948年に亡くなり、2番目の妻マーガレットは1992年に亡くなりました。その他の生存者には、ヴァルト州シェルバーンのMarna EhreckとN.H. エクセターのLaurie Zwaanの娘、ミドルベリーのWilliamとフロリダ州デスティンのCharlesの息子、13人の孫と7人のひ孫がいます。

1980年代に養蜂場での仕事を減らし始めたが、彼は生涯にわたってアピセラピーの積極的な提案者であり実践者であり続けた。

人々はまだ治療のために彼に会いに来ていた」とカーカー氏は言う。彼が蜂に刺されて死んだ朝、誰かが家に来た。